## 周 易 傳 義 補 疑

必は、さいなみやだとまれ 的好多意思是因此是一路者尚其象以上庭者尚其占如清雅勿用群也陽至九 のいて我都やたる安部大 とうであってるおめあ みゃんしかと 中在下言己之之一而極勢為除除至六而極勢為陽勢也潜龍象也勿用計 やおは末立全人分上 おるか。 余上全人立はMの外外 京流電清空衛周易傳義補疑卷之十 もなったいあるのの変をや 在公人不好以下无比也推之三百六十四爻莫不皆然以用也尚主也黑虚美人 あしないれる立は人有いからか あいる了多くしる人を一子なる いすけばるなだとをそろう そのななこればからすべ 好一人以及了別なの別及二五 九出将言の指表不出的分 るかしめる口品が好る色文 前の事長前是明十天 一易有聖人之道四馬以言者尚其解以動者尚其變以制 · 本義四者皆變化之道神之所為也〇孔顏達云易之 言而施政教者貴尚其及封之解以動者尚其變謂聖 為書有聖人所用之道凡四以言者尚其辭謂聖人發 後學刑陽姜 實暴註一門人 个晋江潘維岳 梁山古之賢 一同校

也有王实本处而也疾用 北のぞとするりあてないころ 好多的常品在以次系统 失择九門不為工而論,各名利 我不同科与南日四日公司茶支 大おされたまちゃうを移 多なしなられるるるではす すれれかなるとって こなあるまである大阪上 在在各世人及主治地区 117年 117年 117年 止以证过对不因为必须各了 是以君子将有為也將有行也問馬而以言其受命也如 人之有所與動管馬者法其陰陽變化變有吉凶聖人 祭也以下 年者尚其占策是 並之所用并言上者上雖 之動取吉不取凶也以制器者尚其家謂造制形器法 卦變動之占也 O龍氏曰四者皆是用易然有言動時 龜之見兆亦有陰陽五行變動之状故上與並尚其爻 其文卦之象若造弧矢法睽之象若造杵臼法小過之 在解象占之外實不出解象占之間凡舉動必合易之 取用者有制器上鱼時取用者四句唯尚變難通變雖

的我在人人的意思命是也〇孔朝達云君子將欲有所拖為將欲有所行 · 東京京在林治門の次 近三日中女化於不被三 正はなからうだたならる面 南落用石指石传读中子 明日正指軍後今一、初去正 からためおる最おなく 生了手下去去去了。 為無有遠近出深遂知來物非天下也至精其執能與於 李光的なましまめかま! 方かそれてをからまる 第つるかそんきでなり 等先在中西西西西西西西北人 上京的公外人奉元四京一天中西人的四部八四日的人用公子还中的人的表一下一年来说很多人表了了了一大的人的人不是近山外的作人的情况的意比的你不知道的人的人的人的人们 の代はこのだって死去る木 でいるとあるこのな人花 門の野友浦を上いかた。 而以之發言處事則易受人之命而有以告之如鄉之 應聲以決其未來之吉凶也以言與以言者尚其辭之 以言義同命則將筮而告替之語冠禮並日字自右植 本義此尚解尚占之事言人以者問易求其主义之發 告之逐知來物者物事也易以萬事告及人因此逐知 如您不應聲也無問遠之與近及出途深遠之處悉皆 從占問其吉凶而以言命替也者受人之命報人告的

伊全京教本任是一之象非天下之主變非成文不足以成物非定衆不足以 孟言度後接受打造成天地之文極其五十有五之數則剛柔有體逐定天下是最了哲學過去一人 以發錯綜其數通其六七八九之變則剛柔相易養意與本能度數差等多伍以發錯綜其數通其六七八九之變則剛柔相易養 我意义之人 要多制品级之人级調之至要其熟能與於此人不成功之人 用老本石的王面矣文印 本在移保很是存借力的人 道其精無以加也 此尚解尚占之事而曰天下之至精者言解占至精之 來者遠自八光之上深在六極之下吾能知之此則天 精妙誰能多與於此與易道同也〇開封耿八日物之 將來之事也易之功深如此若非天下萬事之內至極 地之鑑也萬物之照也所謂至精者也〇雲峰胡氏回

とそれのかんないとうとしてはないましていて、 でああるかさべいがか まる前去不及四一·老少之畫遂成美三變方成陰陽老少之畫雜十有八 向我有五一八八大品學出 如中只都不被不去我女人 我也是一下十五元三八 五七年五夜中寒、九 みだとなってつくる: 下れして方 日年本山十 もがとながでれかです 松苦食品代母果的好人 多度からは付かっ<u>り</u> 女因枯雪正しぬ おなてきなける一変を 妻子好你只是一天路 門者保你少数正安容印 八九六之數以定主文動静之象也〇雲峰胡氏日冬 變乃見陰陽老少之數故謂之錯總三變之數成一多 聚以審其多寡之實也錯者交而互之一左一右之間 本義此尚象之事變則象之未定者也參者三數之心 封之事盖通三拱兩手之策以成陰陽老少之<u>書</u>究走 伍者五數之也既多以變又五以變一先一後更相考 總十有八變成一對故謂之綜錯綜七八九六之數面 伍以變盖三排兩手之策也通三排兩手之策而陰陽 也綜者總而學之一低一品之謂也此亦皆謂撰養奉

そうなどないかはまる!

无思光面古面就不多路之 名か一けるけるいからも かえか見えのるえをのか 看年出一面十名 中门 きなからいず年やかるな 大小和九五 在分子九里无西去台之华 马山东 居里上 年度し上不可見付か 八字 九男女元のやり 大王 思想者说北人不予一至神其熟能與於此生者不安人全年人也之为正於招待用之一的治法是者说北人不予一至神其熟能與於此本者人名言《天作四代五部紀》及此之而成五直通 李明·第中的 易无思也无為也寂然不動感而遂通天下之故非天下 中 告て他以付養子なら で中の街道災本を見卫 下京で出るから出しの見 一之道天下無以加之也 寂然者感之體感通者寂之用人心之妙其動静亦如 立而用所以行者也易指替卦无思无為言其无心也 書契之故凡有所感皆然○本義此四者易之體所以 封文勃静之家逐定矣天下至變言易之有象具至變 易則无為也未有所感則言在冊象在畫著在積寂然 此〇俞琰氏曰人莫不有思易則无思也人莫不有為 感而逐通如感於離則通乎網告之故感於夫則通乎

下好的英地地人的报光 月月月月十月

上等美工本的美多里人之所以极深而研发也不好看些人工山的本旗 なるのなばいいからかびた ことが注 物性テル州政治 ははる名をこれるからは んがかんた方や 次七五年花天子左子の 作を多て作用が人表 勘法確沒有与於死不直 矣の名王直て下しからす 地方をのからを見てるか だっな到れがんやみも! **建香港市全美市品の旅** 斯富出京石斯传统重次!!! 上日本日本四十四日日子 それな正な客でおいる! ててせのがせからせてる でするしのなう 故夫非至精至變之外他有所謂神神即精與變之至 悔各之理無有不通者易其至神矣乎非聖八不能死 本義研猶審也幾歲也所以極深者至精也所以研奏 其神故曰非天下之至神其就能與於此〇凡言易多 不動若無與於物既有所感則凡天下萬事萬物古凶人養養 者至變也口至深難見之理俱就易中見之如所謂通 指者卦而言者之變策之數爻之文卦之象皆寂然不 妙至妙者也在只在日本人作名的指以在之面在江本用小看很好不难的 動之物及問馬而以言受命如獨則感而逐通天下之 大田田大山 麦息

中一大学 在者置人所天华成山八四 月を有 サラスタスリュルる大きの 文文教之此了其公的四个人子传与西 ラインセ ちのはいん んける七年九十七五百五天分を石之 百五季 中人人一切用 在日公本了 其意序來 B·日當自我意言臣係 不敢是多路者 那要一件深也故能通天下之志唯幾也故能成天下之務中神 是我也自己沒通家等了也故不疾而速不行而至子可見有聖人之道四馬者此之謂也 ななる ひよんの以 原中前は城 下を行があるいる 有几七下 もななの西人をよる成到 也見るするる好なな 生かからは立方的である が移る本権の公子五 を得しが在初めれてる 几大なみなしみは七月九 明中傳表指統正の方 精窮天下之至精研幾謂以易之至變察天下之至變 本義所以通志而成務者神之所為也〇程子曰神無 神明之故知思神之情狀卦中古凶海各其幾年微半 不極其深無以研其幾深盖其體幾盖其用也 頭處在治珠時俱研磨出來所謂研幾也〇前談氏曰 氏曰惟辭之能極深也故以解為占則可以前知而 速亦無至頂如此言者不如是不足以形容故也〇层 深題與而難見也幾細微而未者也极深謂以易之至

となくしえらす おらか! かんほど人からいけでかせ 作出人、は似 あべをへ ロやスーとこのぞうなかのと 今まそかべこうではにこ 明月出名 度次のふれのか いる。あるうる一切ますが とないが なったんとう 以丁月首任作 在在BB以下 人拉注飲住內得矣 いまる不具人の思いなる 展入り印書」古成為支 要官员一至水中十七十八日五日 かとなけんれかのもれるの 王成正人名为在先生是 現代はたべかめの日以か しるまでれまなおりもま あるいみ人母祖野文文書 AT面比·无政治无比 原好元份、九四周芳美 章言易之神首節無居與動而言夫易以變化為道皆一次 通天下人之心志惟變之能研發也故以變得象則可 此者皆妙不可則之神為之非人所能為也〇楊誠係 以制作而完成天下人之事務然群占變象所以能如 神之所為也而有聖人之道四馬何以言之指其所之 此章承上章之意言易之用有此四者〇葉處珮曰此是不多 出户豈假疾而後速行而後至何爲其然也心之神也 者易之辭也以言者尚之則特然後言而言無不當美 日聖人範園天地而一 念不踰時經綿萬方而半武不 右第十章なから見られてるなちばるるるはあれる。れ一人とまれた本日南水水は多のない、大田の物では、花七色版は、飲みなめれらる。我山水伏った我西を出すれ ALL OF PERSONS AND PROPERTY.

供を出からいある出来 易馬擬議之但言居行先故將有為有行必先問馬而 無不時美象其物宜者易之象也以制器者尚之則立 指其易見者以發明首節之義耳且君子之言動也於 於行謂之有行易受人之命其應如獨其於未來之言 法利用足以盖創物之智矣極數知來者易乙占也以 化而裁之者易之變也以動者尚之則見幾而作而動 以之發言然後以之行事也行之於身謂之有為措之 自是以君子将有行也以下雖就筮易而言然亦不過 上莖者尚之則占度决疑足以極知來之神夫上筮不 必指定筮易言只是假借字義言吾心占度裁决之意

吾心言之即洪範所謂通微是己夫易以變化為道 察夫三極之理者常能及也若以吾心言之即周元公 動以定變之順非窮极乎變化之道者弗能及也若以 事而日天下之至愛盖通愛極數以研象之幾立象親 以成陰陽老少之畫也极其數遂定天下之象者盖極 所引洪範所謂思通是已多伍以一變而言錯綜合十 天下之至精盖群以盡象之意占以盡卦之情偽非粒 凶無有幽深遠近必皆知之此尚辭尚占之事也而曰 有八變而言通其變遂成天地之文者盖通三變之策 二老二少之數以定卦文動静之象也此尚變尚象之

打四月六日中一十八日か出了五 でなかめかえるカナばれる 第五下冬夜万五的父亲子 棉厂的林说后无比如宝 以於政方用于不力方人立 陳宇金也,原水中接上之香之,中子子并加,水池也已需要米的,本之其为别悉,心子,与不住的水正,之,如,也可容 いるれのるようとあるし 以在大用人与七十里年 本五丁日之人弟石文以 乙多人ながりましな甲女 ふんないまてるとなるし 亲中下午女人笑的**以高红** おあるの直すべて天が地 日はかかいてしていかずるな 日来不上起不全生了公子人 孝代 子花生成天月主日 节我生今家正可以建大 あはかめしたま状ト 異なな 大ろき ,象變之至變以其研幾也故能成天下之務超時立制 其極深也故能通天下之志足知來物而有為有行矣 不通是巴夫易辭占象變而已美今夫辭占之至精以 有一物曰神也若以否心言之即洪範所謂無思而無 而利用廣業矣然所以通天下之志者神通之也故不 坤之良能也由其合一故不測而神非乾坤之外又别 事時雖寂然不動若無思無為也及其有感則逐通天 故曰非天下之至神其孰能與於此夫曰神者盖即乾 曰,至精而本無思也雖曰至變而本無為也故當其無 下之故又未曾不至精至變若然者一皆神之所為也

さるかに名がいため 金之妙 经夏美尼花子查道悉包果於其中如斯而已者也是故水開物成務厚道 给是在他们以完成是一门的事情的道法。 要多次中奏我们断天下之疑 水易道下文凡六節各有是故字符以信小 大田とうててこれは世代の大 是不是如至人方言,也成務人所欲為者成全之過變也冒天下之道天下之 为一般是是一子田夫易何為者也夫易開物人所未知者開發之獨理 在野中的はある日本での子中 かれ、きて上田までもあり では地の用を天命記し 門君一次智力一大 るしなしているれるかったこと をゆきが犬な四年ででし かりるるまと しあい世はかれて国家 說聖人以通天丁之志承開物以定天下之業承成粉以 本我開物成務謂使人上並以知吉山而成事兼算天 其至精至變而至神故謂之聖人之道云爾 夫子復申言以結之日所謂易有聖人之道四馬者 疾而速所以能成天下之務者神成之也故不行而至

可私等易於に連を奏 以四百年本 れれた 夫にな 金書の六十十五四次出 按其京南日盛飲養 为我化分子女一孩以却女 上文及上世色化表 多·各 会生は口の 丁一日 とま 丁をる作の上宝 かのなんみあるらなあした せの女もしかデラガスカー 人人性生子性多收数巧辱 老牌放一程亦有着妻 10年 10年以上人以此洗心退藏於客即無思為吉凶與民同忠即感通 いてものかべるころかなのか 用いれらないてかるればま るとやくてきのおりな 見故著之德圓而神卦之德方以知六交之義易以貢聖 之業易能胃天下之道故聖人用以斷天下之疑 則明之成務謂事體未定易則定之胃天下之道謂天 此也〇俞琰氏曰何為問辭如斯答辭讀易者不知聖 聖人用以通天下之志易能成務故聖人用以定天下 下之道無不包括於卦文之中也以用也易能開物故 人所以作易之意則徒玩其辭爾開物謂物理未明易 人作易教人占吉則為凶則否所謂通志定業職疑者 下之道謂卦爻既設而天下之道皆在其中朱子曰聖

至一大多年在新年本年是其就能與於此哉古之伏奏能知言凶聰明春知譬如神其夢他的是教在外界是其就能與於此哉古之伏奏能知言凶聰明春知譬如神其夢他的是教在教者是外所問雅辱若然是也其神足以知來其知足以藏往聖徒罪名為養養 武一本从我名在其经久秋 的是我是最多一直而不殺無待於上軍者夫以上為第一即自此以下好 の関するるかでするいい 是四一张时务的天教级 一百建立上並之人 アナンシュ スレーカナサロー らず以かり食みて 祭下り、治事の方とない 四卦一件美国对一定活动 不合了非四十个治中场心 見るたした せんれれるしずかの我となるなの日王 本義圓神謂變化無方陰陽老少理無一定之用方知 變易以告人 剛柔选用九六相推聖人體具三者之德 而無一應之累無事則其心寂然人莫能窺有事則們 知之用隨感而應听謂無小越而知吉魯也神武不殺 調事有定理象解旅立古的得失一定不易以首問

ダメる女者かずなしく! 工作中文及公人名里名社 退死をぬなるというなんに 西方直を当なるたる当二 大方依古在几个百代比丘 記されて人かといる天 おのがおですることは 考大人は大 教教を自生 当下代一城下九不都思り 本 为为便民義并出 屬上作賛詞恐當带替上無起下為是俞琰氏回著用 ろ数ちゃるしばhをなって 在方便不比此人四人去花生 理比如对利之不多成立 おそを移及る面云 ちに できまたる政の高で生亡 方気飲み致るよる が用いかを使うますれたが! 方六爻之義各有所取盖隨其時位也易者變也貢者 故也非神以知來知以藏往其就能與於此故以此句 龍氏夬曰以此洗心者所以无思也以此退藏於客者 得其理而不假其物之謂〇張橫渠曰圓神故能通天 潜心於淵默寂然不動人莫能窺吉凶與民同意謂有 以吉凶告人也聖人以此洗心退藏於客謂无事時則 於封未定之先故其德圓卦成於者已定之後故其德 所以无為也以此吉凶與民同患者感而遂通天下之 下之志方知故能定天下之業易貢故能斷天下之疑

であるなかまでは リーケートとしている みなてアガキ作用され 四布越名意法用る出 不大字本かない生 鬼の地 不敢正在山客如果季八時 外が中国が七次の古みへかか 典に成るな数のなるなべ 下坐然一部口於以及果然在 丁九方春日在一方在一次大 るはんる気をおれてるでる 思之至公子人臣、西安丁 了我先於是国字中九九九 お上山の中人の空冷をしな 方はいけずかり食ではた 之故者易也在聖人則古凶與民同患聖人即易易即 來之事着之神無不知之而聖人所以知來其神亦與 著一也既往之事卦之知無不藏之而聖人所以藏往 不動者易也在聖人則洗心退藏於客感而遂通天下 事時則其神知之用又隨感而應當知無思無為寂然 其知亦與著一也其就能與於此哉問解也古之聰明 聖人其道一也神以知來二句亦無着與聖人言之將 唇知句答辭也聰明唇知神武而不殺盖古語而孔子

金吸取食了五方多作品 二郎自此以下送言直文布引之法以見神明其德之事 人がおガンとれたのかとは、大い地明を入したな人とは、 ある月立はなるて変張る 出落空空之意物以前民用作易之事聖人以此齊戒以神明其德夫易 等表 芸はいしそろろな ゆえし あせ方有名な からすべいかれれるいでもあ 好子生へとれれ四季八日代 れて何る神人の子伝のこれか 佐子其子子人をおれて 用できしならばれし ないのはかは人しはみやト 察者は知可思考民用之則神明民徳里人用之則自神明其徳以上為第一次本意的教皇帝也不是形以前月月月 月一月一月一月一月十八月日 五八月十五年八の名成 祖やはるおうだしは上で 生きの上午はて私文しげんなり 考其占使其心神明不測如思神之能知來○南軒張 氏曰者足以撰天地之數龜足以見天下之象天能生 與著也對之七十二而置之前列所以與龜也天下之 之而不能與之惟聖人用其四十九而幽贊神明所以 有以開其先是以作爲上筮以教人而於此馬齋戒以 本義神物謂者龜堪然絕一之謂齊肅然警惕之謂述 明天道故知神物之可與察民故故知其用之不可不

とおいれかけれてき フサーフ・サード・ログー・レイ 世界与己是是之通見於著策刀謂之象形於事文力謂之品制作至之 ゆうでんかくない 大大大 が成れて かんだかかまり 成大七大火三利用しまか! 以外本でからなるで大き! 等主要第一主法而用之謂之法利用出入民成用之謂之神以信不 それがお西 又きれなび お丘か城し芸人 非過~於本文你你 神區六九十二 与考本小 以此明蓋子民心在是法 **ドア日月市動あた用しる文** 产石支えいなしがれれし 与他出南起天念不日兄 我是人人经本经济各政分 グガラインは生材と異なる 按片字便至考用名及 图戸謂之坤關戸謂之乾一圖 典神物前民用其書文布封以神明其他之事如何是故 三郎 まからしきもはあるなこるとうで用きっからみるしか 本我問開動静之機也先言坤者由静而動也乾 知其所以然者矣 共有考題以前之也然後聖人深居簡出利用安身齊 民其終不倦而樂於有為亹聖不忘而勇於有行者以 以去其不一之思戒以防其不測之患神明自得有莫 開謂之變往來不窮却

があるなけるこのを カイーなんで同一大変な 况去刑器内京佐路住物设 いつこでニスな一方なまでけ 内风船无对东公百 万不方の格なるときませ 又全七八年以来るのな面 子田しれだれなかるること 宋古子居关 在少打四本美女一百三五寸 リースイヨーカラティ 13物而施用之番為模範故云謂之法聖人以利而用或 來不窮據氣而言氣漸積聚露見萌兆乃謂之象言物 體尚微也體質成形是謂器物言其者也聖人裁制其 **作為水隨須改變無有窮己而恒得流通是謂之通往** 通者化育之功也是象形器者生物之序也法者聖人 陽或閉而還開是謂之變頂性則變來為往頂來則變 言坤而後言乾闔戸謂開藏萬物闢戸謂吐生萬物開 修道之所為而神者百姓自然之日用也〇孔類達早 開相循陰陽處至或陽變為陰或開而更開或除變為 易從乾坤來故更以乾坤明之凡物先藏而後出故先

うまられる 來不窮之妙是謂著之通見而為七八九六之數謂之 策之分也一合一分是謂著之變分合進退之中有往 為用著之神〇平庵項氏曰第三節言畫卦布爻之法 出或入使民成用之是聖德微妙故云謂之神〇雲峰 戸謂之坤者四十九策之合也關戶謂之乾者四十九 胡氏曰此章本義以為學言上軍此段若從上遊說圖 戸謂之乾言書奇文也凡奇皆獨乾一圖一開謂之變 以是故發解闔戸謂之坤言畫偶久也凡偶皆屬陰闢 象形而為剛柔動静之文謂之器此乃聖人制為卜筮 以教人是為揲著之法民一出一入成用之以為利則

医客心若用于西等中侧作之本如何盖易者生生之妙而太极者则所以生生了对公安于乃共利肃之制作之本如何盖易者生生之妙而太极者则所以生生 ·教文衣寿後曾等者,係匹也一除一陽相匹配而為兩也 多人有些原体多出各者也是故易有太极是生两儀两儀生四象四家生八卦 在於人とは二田兄成計は文や 五七色面ヤネホあいちの十 **右八部 未的大案 即本石品的主** 六畫既成剛柔相雜言成卦也往來不窮謂之通九六 言見於善策謂象形於卦爻謂語制用之謂一筮之法 之動交相往來言之卦也皆自神而明之也按其迹而 資於利用王公皂隸之人皆用以決疑極深研幾其妙 如此豈非天下至神手此自明而神也此下復推明制 可謂明矣完其用言之枯塑敗槧而內外静作之務皆

火きのでするいのからでき 我有我也是了多都提出 脚事 赴功 ·安~在加及多的用出人好几 佐田子は三てが呼ばるので 部工艺在安全八年定吉山古凶生大業吉山既定律民無所疑而勇於 ある太在名字 なれなるを 南食品人都多不知片食養 さておかるなべいも人これん そが主養なありましかか大 医不要是 本義一每生二自然之理也易者陰陽之變太極者其 第五日万月巨女万九届月处比 てまる大学かかしなって 中心中的自不会大松也 一年七十四十年一日や 大百日本子記言元共八九 分太少八卦者次為三畫而三才之象始備此數言者 理也兩儀者始為一畫以分陰陽四象者次為二畫以 實聖人作易自然之次第有不假絲毫智力而成者畫 事拱著其序皆然詳見序例於蒙〇朱子曰天地問只 以動打之理馬是則所謂太極也是完美人五月月日之後在大人 有動静兩端循環不已此之謂易而其動其静必有所 本義有吉有山是生大業〇俞琰氏曰八計具而家若

中名不孫でしていいなかれ えまましただ 序子·主义 等全原都在上 学说例子上至日本大座北京 みがかなるうりませるお 差人作之子七大久紀后也 差也找去奉都如免投作 我也一下二萬石計说不移接! 然後人謀作而大業生若無施不宜則何業之有〇雲 凶則足以斷天下之疑矣吉凶定而生大業則有以成 举胡氏曰易有交易之義上文所謂闔闢往來者易也 太極之理也此章所謂兩儀四象八卦即易也又原其 易之占辭何為能生大業也横梁張于日有吉山利害 故承上文而言其所以闔闢往來而不窮者以其有是 之其言伏羲始作八卦者亦謂六十四卦也夫吉凶乃 十四卦也八卦更相上下為六十四卦故例以八卦稱 何爲獨言八卦也平庵項氏曰凡係解之稱八卦即 天下之務矣夫易之為書六十四卦具乃可以占古白

為易書之所由作 天地以下六句言成器之所由立天生神物以下四者 三易有太極以下六句言爻象之所由生法象莫大乎 占凶生大業有體必有用也○平庵項氏曰自太極以 為二畫以分老少謂之四象又次為三畫而謂之八卦 至末章為第四節極言聖人制作之本然制作之本有 又三拱而有八卦之象自一生兩皆有太極之理存馬 以拱箐則一拱而有兩儀之象次二拱而有四象之象 始而言者惟其有太極之理所以生儀生象生卦而謂 之易也以畫卦則始為一畫以分陰陽而謂之兩儀次

此のある中華家者下之事重者莫大乎著題 れてて世間の以しるのなかが 火智出器用おててした があせやの個母再車しれ 在第2股也是我莫大乎聖人探腈索隱鉤深致遠以定天下之吉凶成天 たあし数字が老人による 你不不可服生在 段はふれなのか子がまむ 多之方的為 是故法象莫大手天地變通莫大手四時懸象者明莫大 めらのなっているでかり 不上大不上十七年之 大手中沒多一手日月崇高莫大宇富貴備物致用立成器以為天下利 不致地人品中表于五十 中の形らだみ ずい ダイのうなしなかた ガースの人なっとおい 象萬物之生有頭有微皆法象也而莫大乎天地萬化 懸家者明也而莫大乎日月崇高以位言而貴為天子 之運終則有始皆變通也而莫大乎四時天文與爛貨 富有四海者為尤大智者創物巧者述之皆足以為利 勉也疑則怠決故勉○進齊徐氏曰法謂效法象謂成 本義富貴謂有天下復命位立下起有闕文亹亹猶勉

水出物やで 力此形元山主、子六分金 でかれて なが在るけるる しなのちゃくうでもないもの 同日の事長有足って 為大順隱以物象言深遠以事理言探之索之則順者 示人本隱之顕何以開物成務是三言者各有所合也 通盡利何以神化而宜民日月之明旁燭幽遐非易之 凶而勉其有成也故曰成天下之避避者莫大乎者龜 者言也天地有自然之法象非崇高富貴位與天地並 上三言以易之在造化者言也下三言以易之在人事 出而遠者至美卦爻示人者明若觀火則有以决其吉 陳而隱者顕美鈞謂曲而取之致謂推而極之則深者 而物無不備用無不致立成器以為天下利者惟聖人 何以修道而立教四時有自然之變通非聖人作易愛

之所なはまる一野は

中して大阪村で与る大阪 る方、ひむしかにはよしを やいうであしたかいあすて 玄面しているもりしてい てるれかとているか というかけるしたかるな おけるいの大きちできば あっくけんているけん そでいまず おあしながる 実をととれている。まで、こ 七十二年 妖经世人也是明 大的ある中しい月代老人 大めがあずしてもま文 五合べれをおろうん 龜决之〇俞琰氏曰法象莫大乎天地而易之法象與 及富貴者制之富貴所不制聖人通之聖人所不通差 孰能之〇蘇東坡曰天地四時日月天事也天事所不 親天地四時日月又考之著龜而作易以通神明之德 雲拳胡氏曰此六者之功用皆大也聖人欲借彼之大 者明莫大手日月而易之懸象者明與日月同易也可 然則通天下之志定天下之業斷天下之疑非聖人其 以類萬物之情處崇高之勢備物致用立成器建卜筮 以形容著龜功用之大故以是終馬〇朱震氏巨聖人 天地同變通莫大字四時而易之變通與四時同縣象

月多年を前を気を見てい 成天下之歷歷歷查有勉勉大抵有疑而莫能決其心 之曰崇高莫大乎富貴備物致用立成器以為天下利 天下用易而非聖人之德亦不足以為利於天下故斷 謂大矣雖然作易而非有聖人之位亦不足以為法於 莫大乎聖人情謂雜亂探者抽而出之也隱謂幽僻索 者尋而得之也深謂不可測的者由而取之也遠謂難 至致者推而極之也順非探而不出故以著龜探之隱 理之深遠養見皆探索之鈎致之故能定天下之吉凶 鈞之遠非致而莫至故以蓍龜致之凡物象之腈隱事 非索而不得故以蓍龜索之深非釣而不及故以蓍龜

你自己不管的人是故天生神物着。聖人則之而四十九之用以行天地 中元名が孝、出好なと \$P\$中国的学生是一古以河出圖洛出書金木水火土生成克制之形聖人則舍即的中華等等以本本等。罗葵 からあれれみない 享言考系教子 意图變化出陽聖人效之而對文之動詩以備天由象目月星然主張的方作也在 かてってなるれるすう やち日で有ける我の宝 世馬を用っよかきへには上 張田野の直子てもごえて 展見吉凶循度失度而吉凶見聖人象之而卦义有以斷 本義此四者聖人作易之所由也河圖洛書詳見啓奏 後又繼之曰莫大子蓍龜 必得一遊以决之而吉凶既定自然加勉則其所以壹 **惠者是卜筮成之也聖人何與馬故於莫大乎聖人之** 〇雲举胡氏曰四者言聖人作易之由而易之所以作

作るほかなるままや 七十十代七六五七島 四個的的 一部七年大列 近れないなくかろの正相で あるるるい用はりしんで見 子が用るるなけれるるる 何がなしるや方えて国ハ 若月後日子記るる 年 があるるるいのである 山中へては下太子やるかす とうちおいるすね代四偈 を放放するるチャンをな 李三面形成2000年 ちきいあん用かれてでな 共路や季人切しなる男子 る国のみかるかとする 事事体表情教 八八十二十二 **当聖人自出已見哉天生是物而聖人則之也則之者** 或曰替龜並生於上祭養草叢生百莖半之則應大行 之数五十九十二文中間五段兩旁四段周周二十四 以之為法也後云河圖洛書亦皆神物也故皆言則之 前知故皆謂之神物孰生之天生之也聖人之作小筮 由於卜筮故又以天生神物始爲〇俞琰氏曰前云分 與神物獨指著而言盖承上文著之德此云天生神物 不用而用四十有九之數盖皆神物也天地變化謂四 乃指著與龜垂言盖承上文莫大乎著龜此二物皆能 段殷之文十二段總而計之四十九段則應大行虚一

卦爻之動静盖做效夫地陰陽之變化天無象謂日月 時也暑往則寒來寒往則暑來走謂變化聖人效之如 有象可見故言象伏羲之時未有文字始因河圖洛書 圖之数四十五洛書之数五十五說者以關為是劉為 天之番桑以見吉凶也聖人作易而示人以吉凶盖象 非其實皆不然按書顧命云天球河圖在東序天球王 五十五数為河圖四十五數為洛書劉牧兩易之謂河 之而已多像也天地變化有理可測故言效日月往來 日月往來有盈多薄蝕循其度則古失其度則凶此 文而盡卦故曰河出圖洛出書聖人則之關子明以

が大作品では、 **岷崙産王河源出崑崙故河亦有王洛水至今有白石** 出書聖人則之聖人指作易之聖人盖伏義也是河圖 洛書盖白石而有文者也聖人則之謂則其交次畫卦 洪範乃以為洛書者禹治水時神龜負文而列於背有 浴書伏羲之時具有之矣劉向父子班因輩皆循安國 數至九禹遂因而第之以九類按禹貢但言導洛不會 數也易固有之也易安有所謂四十五數哉乳安國注 也河圖而與天球並列則河圖亦王也王之有文者確 言洛之出書安國何所據而有是說孔子曰河出圖洛 耳初無所謂五十五數與四十五數也夫五十五數易

中央を上述けるのし用意 古直不中蒙 的湖水方 易有四象可以開物所以示 言安國之徒乃岐而二之巴與孔子之說大相矣况書 有河圖未有洛害也不亦緣乎夫孔子無圖書二者並 九時此皆無樣程經者之 所言之數非易數也附軒張氏曰鄭康成渦於總書乃 云河圖有九篇洛書有六 乃謂洛書有九數畴之數亦九遂肆其說謂禹得洛書 所謂天錫禹洪範九畴盖未當謂錫以洛書安國之 而私九轉何其妄耶〇東坡蘇氏曰九宮不經盖結書 說遂以為河圖於義洛書錫禹如此則是伏義時止 一以河圖為八卦洛書為 馬繁靡斷上必可以

かてらきいかいもんみはける 在男子子去我和我一成務而天下之道無不在其中所以告也定之以言必所 但乃如田野之来之故之史祖 るがてまれていればちょれ 化神のなり 次断也盖總一章事一上並之意也 皆指伏羲只祭辭以告是文王周公事首揭夫易何為 本義此章專言上述〇雙湖胡氏曰此章凡八稱聖人 也係解馬所以告者告之以解而使人有所知也定之 本義四象謂陰陽光少示謂示人以所值之卦爻〇愈 者也一句謂問辭喚起一章大意而以未易開物以不 琰氏曰易有四象所以示者示之以象而使人有所見 以吉凶所以断者吉凶既定而使人有以决其疑也 右第十一章

效之象之則之而未及文王周公之辭馬故本意謂此 留貴之位能致用立器以利天下而必以養龜成麼層 之事第六箇是故雖論天地四時日月實歸重聖人直 言聖人以此齋戒此即卜筮以用卜筮也第四箇是故 者結之亦聖人事至第七箇是故四致意於聖人則之 是故提起易有太極以論生儀象卦之法亦襟馨求卦 楚之綱也第二箇是故言聖人以此洗心第三箇是以 下楚之事第一箇是收說聖人以通以定以斷總言下 為答解盡說歸上逐其下六箇是故一箇是以皆發明 分言問戶為坤關戶為乾以明畫卦布文之法第五箇

月るないとすると 所以能開物也卦之德方以知率而換之具有典常所 成務者而定天下之業以易之胃天下之道者而斷天 葉良佩曰此章言易之用與聖人作易之由皆主上筮 圖書為作易之原亦因是而發馬此皆不可不知也〇 章專言卜筮而伏義畫卦之法其綱領巴備見於是而 下後世也是故以易之開物者而通天下之志以易之 而言也易何為者也數之始也理人患天下之不知而 以能成務也六文之義易以頁要其吉必存亡則辭無 下之疑何以言之著之徳圓而神筮而求之遂知來物 作也故為之作易以開物成務冒天下之道凡以教天

者之德具於神也用智而不用對卦之德具於智也聽 有事則吉凶與民同患其神自足以知來其智自足以 矣以此猶言用此也洗心者心中渾然此理无他物也 明春智神武不殺凡以賛言其為上聖之資也聖人之 藏往即所謂感而遂通天下之故是己用神而不用養 特則退藏於客思神莫窺即所謂寂然不動是已及其 容則言聖人所以作易之本希動之静而之義則變易 程淳公曰容是用之原聖人之妙處也故當其无事之 无窮然而未盡卦之前聖人已先具此三者之德於心 不備所以能胃天下之道也望人以此洗心而退藏於 司政争的黄度司 資性如此是以仰觀於天明於消息盈虚之道俯察於 民得其吉凶存亡之故於是與神物以前民用神物即 謂者與龜也前民用即通志成務斷疑是也盖至是則 出乎震两係各一太極也由戶之一圖一開而言則韶 為物歸蔵萬物一太極也由開戶而觀之則謂之乾帝 用易其神妙有如此然豈深遠而難知哉即人出入之 百姓與能成有以成其歷盛而聖人則端拱無為齊戒 門戶可以取管而見矣是故由國戶而觀之則謂之坤 以神明其德盖與天地之神化同其不測矣夫聖人 之變天道以四時成變猶易之兩儀生四象也由闔開

用之則謂之神是故易太極觀諸聞尹則知之太極生 生亦循是也由是聖人效法天地制易之度數教人用 成物凡在地成形皆謂之器易以次疑成務而大業以 萬化常新亦猶易之四象生八卦引而仲之為六十四 象亦猶是也形刀謂之器戶即器也自天地而言坤作 太始凡在天成象皆謂之象易以九六相推成吉凶之 之則謂之法民由聖人之法利用出入變化云為罔不 之不窮而言則謂之通天地之陰陽相生循環不已而 两樣觀諸關戶則知之兩樣生四象觀諸一 也見乃謂之象戶之隱騎皆象也自天地而言則乾知 闔

乾坤乾音坤偶故謂之象變通英大乎四時易觀效其 變動以成六十四卦三百八十四爻故謂之爻懸隶者 知之四家生八卦引而伸之至六十四觀諸往来不家 凶易之象辭縣繁吉凶休咎明以告人故謂陰陽之義 者而言之是故法象莫大乎天地易擬諸其形容名曰 非易道之大全乎此取諸近且小者而言也又自其大 業觀其形器法及利用出入則知之夫斯戶也何莫而 則知之八卦定吉凶觀其變通之象則知之吉凶生大 配日月至若崇高以位言惟富有四海貴為天子位與 明莫大乎日月日月之與星辰其循度失度則有吉有

後能探職索隐鉤深致遠定天下之吉凶以决其疑成 手者題夫易之為道小而戶之闔闢大而天地四時日 富貴備用以他言智者創物巧者述之皆足以為利惟 月无有不合然而君子之學易者又當推原聖人作易 天下之麼歷以廣其業惟聖人之易道為然故曰莫大 无不致即章首所謂月天下之道是已故曰立成器為 天下利莫大乎聖人鼓舞神化以功用言家蹟隱而難 知變化之道與四時同其變通者夫然後物无不備用 天地並者夫然後能以易道教天下故日崇高莫大平 知理深遠而莫究惟具神明之德與日月同其明者然

りり下で原己型とり 辰之象以循度失度見吉凶聖人象之因其罰柔雜居 少之四象所以示人以卦爻動也繁辟馬所以告人以 聖人則之以為大行之數四管而成易十有八變而成 之以摩盪重爻副柔相推以成變化是也天無日月星 則之以畫卦作筮天地以四時變化寒暑晝夜聖人效 之本始可也是故天生者之神物長丈餘滿百萬聖人 象而玩其解斯易之體於我乎立矣至於易有陰陽老 梅杏之群此三聖之易書所由作也故君子居則觀其 計圖書為文字之祖文王周公又因其象而緊以吉凶 而著失得憂虞之象馬河出圖洛出書皆具五行之數

至大元子及公里也人之所助者信也復信思乎順又自下以尚賢也是以以軍侯子名了公路之! 班生事 思わ外を取付め 任党的人任意 百夜 付便の変をあるととなる 学院是 茶儿 古名 在花山人 即位居即是致複珍在於不 てなってが、方面はさて 以動展やあればてロサム中か となるとはいうんだけるに 服除言君山島西は使え ,老人也不是我就你了 目天祐之吉无不利也見人順道而行自與吉會之意 開火作業村芸芸ない 繁辟所以告者能依其吉凶断而行之則鬼神无不祐 本義釋大有上九爻義然在此无所屬或恐是錯問宜 讀者宜致思馬 人占决凡以定業而断疑也故君子動則觀其象而玩 失得憂辱之故凡皆以通其志也定之以吉凶所以告 在第八章之末〇孔類達云人於此易之四象所以示 其占斯易之用於我乎行矣此章論易之用最為詳備

満る不満了五大るよ てしてきをかけるしか合 九世的 またからをつす 上大比 はなることがなったって 氏曰大有上九爻附云自天祐之吉无不利孔子於整 解傳凡三言之此則兼言所乗所應皆發明言外之意 是發信也身雖在外而乃心未當不在君是思乎順也 所助者信也信則不欺於人是以人 助之爻但言天此 又兼言人天人盖一理也當大有之時六五以來德居 也天之所助者順也順則不悖於理是以天祐之人之 順則天助之矣九三賢人也上之應在三又與之同係 中而在下泉陽皆助之以其信也上九位居六五之上 助无所不利放了易之大有上九爻解以發之〇俞琰 相尚故曰又以尚賢也其德如此是以自天祐之吉无

るいるできてきます。一子日書不盡言言言不盡意然則聖人之意其不可見乎子老女者者を言う子日書不盡言言言不盡意然則聖人之意其不可見乎子 立るる治性がは一人不有る 第四章·1分迎在一日聖人義皇立象以盡意設計六十四卦以盡情偽繁辭 かをなかめてせばれたさ! 大き大を土色を見るは、「一」「「「」」「「」」「「」」 左左来 鬼以神思之 义王周公录 交節馬以盡其言變而通之以盡利鼓之經 が全場のちめなり 地上方点上十七万大大院後 今面已先替出了好生之以盡神 先出元か古塔松養方古ほ しばまれてもたくしかりるこ そだてなどのなんなのでに 年もとかおいりははいると おれずえを至人の去る正日 あるなべがかいまってと 生态以为 如西谷子华人北 本義言之所傳者後象之所示者深觀奇耦二書方合 變化无有窮盡則可見矣變通鼓舞以事而言两子曰 通書乃周子所自作亦為後人每章加以周子曰字其 字疑衍其一盖子曰字皆後人所加故有此誤如近世 該問答處正如此也〇吳隆氏曰盡意盡情偽盡言皆

京の書本在名 - 見聖人立家以示人徒之觀象而默會其意所以盡意 まれくのなどったナイル なな正なり本をしかと我 はつきしけるとうました任 なるおかって AND主心的有多篇主 がしけてなる いっちんきんか 有女二元五四十年 久野的家 第一指去公子生 石在如夕往上的电景泰子 有六元五人传生:1 预在天 山南 あまちの我、花かりい 今天在日子也不好不了 からのしめいですお上の主ハ 再内を項をすったみ人れに 此代话是乃信写王一件一大 八變之法使其所用之策往來多少相通不窮而其所 以定吉凶則民皆无疑而行事不倦如以歧於作舞答 然而然不知其敦使之者所謂盡神也〇俞琰氏曰書 鼓聲愈疾而舞容亦愈疾鼓聲不已而舞容亦不已自 則非言之所能盡達然則聖人之意其不可見乎曰可 以記言言有餘則非書之所能盡記言以達意意有餘 用而不局於一則其用愈廣而足以盡利矣因變得占 得之卦一可為六十四亦相通不窮其象其辭皆可通 所以為天下利又恐其利有所未盡於是作拱着十有

安西班拉罗王美士百五 おずれられるるああるかけて 首美的人才 行号夜好死 てぬかが大西をかるい西川 科拉特引伸就與气焰色有 女好地最大 我以一次地方一只要色 英和了比比比人的工具的 我我不像作的 去男孙为二 化十分六不力 でりかかるほか けんたんと 蓋ををおする 星方二月代名被西西町 盡思疑是古語次言然則聖人之意其不可見乎是該 變過鼓舞此聖人用易之事或曰首言書不盡言言不 莫测足以盡其神矣立象設計繁群此聖人作易之事 以盡其利矣鼓之舞之則有以成天下之麼豐而其妙 盡言也變而通之則有以成天下之務而其用不躬足 端非言可盡設之以卦所以盡情偽也緊之以解所以 者也情實也偶妄也偽則不悄情則不偽人之情偽萬 象在是象在是則意在是矣意者心之所向而寫於象 也夫聖人之作易設計觀象然後繁之以辭卦在是則 附之辭以下是答辭 THE PERSON NAMED IN COLUMN たるからて、田心をある。オー 四易古君主文化方不太公方 からならするな状のでんまく の付き物にうえな此るのかと 在河南の主言子でるると ; 是我我要好的我一两畫不成則易書亦无自而見又若當時作此易書不成成為我我們的我們 おがのそもあました中西道院 我明知我可以了則二畫我於歌滅无用矣見得易不可无二畫二畫亦不 まの切りえるのみこをおし合す 中智也是从是一个是事只此二盡分左右成行列而一部易書已在其中乾坤野 至一天是福的司皇乾坤其易少組那乾坤成列而易立于其中矣初畫針時 此第五年致八万是处是九种 ままだ 古人ラスな人のとるるい 可无易也 矣乾坤段謂卦畫不立乾坤息謂變化不行〇俞琰氏 本義組所包蓄者植衣之者也易之所有陰陽而已元 陽皆乾凡陰皆坤畫卦定位則二者成列而易之體之 曰縕衣中之綿絮殆是也乾坤其易之縕邪謂乾坤縕

中南正文在公司教室、路即乾坤商耦之畫化而裁之謂之變推而行之謂之通明力等之不必必以此即乾坤商耦之畫化而裁之謂之變推而行之謂之通 克里·北京北京是故惟易不外平陰陽形而上者謂之道形而下者謂之 少好美張の好るるながれば「 第四十三元至四日五一举而措之天下之民謂之事業即所謂定天下之古凶成 以下在人生各次,言处是在今天了一—— それをかおいなり あくもえるかいるなかるスト 見のないえおけ かのかんざる 事不利別をも四かる又述不 一ろはかる中かい列上サイヤ 即後やを聞られ去を列きい 胡客等的乳件的是苦你一至馬 易无体 松光之字对孙 於易六十四卦之中非謂易組於乾坤兩卦之中也易 中之所組奇偶是已九六散布於二篇而為三百八十 六两者之用息矣乾坤未當毀亦未當息特以爻畫之 九六若不成列則无以見其變易之理爾 易者乾九坤六之變易也两不立則一不可見故儿亦 毁而不成列則无以見其為易也易不可見則乾坤九 四爻則乾坤成列而易之本立乎其中矣易之所以為

班之人不易也也就看一人不久!

近五道者なんできるうは 我りをおうひらしまうしす! はこれ子刊の本有公己之成次 长年的了任文大歌山江中全 有好加強人苦造力易也是力 是在かるはれる 天下と頭面者 重为无体或指了艺力如二下的 もけると 田丁学中形中あるのでありむ 意比直安塔松直安住川 推上獨口獨立指一個地田記 八名上祝的一种的政務之大人 老人とはる学をおしる子 聖城雪在四度将 不食的日降之 之未成業房事之之著〇俞琰氏曰道无形故曰形而 也將已裁定者推行之方是見於事如堯典分命義和 等事便是化而裁之到敬授人時便是推行如亢龍有 人言〇因自然之化而裁制之如一歲裁為四時一 裁為三月, 月裁為三十日一日裁為十二時此時變 潜之事則潜為通當見而行見之事則見為通事者業 本義卦爻陰陽皆形而下者其理則道也因其自然之 悔是不通處将來无悔便是通又如乾之變當潜而行 化而裁制之變之謂也變通二字上章以天言此章以 辛六

州立すら己苦其子だおれる下

及初古花之表花之五日家 二大格が多ないである名が在る地 近し最れな子云なかはり 生でもせていまかはついてかけま 書道しか月至 西生子道不真 四年至之十五十五一宜是故謂之家聖人有以見天下之動而觀其會通以行 至三人大多至一生 是故夫家聖人有以見天下之睛而擬諸其形容象其物 養養等養養之人 也何謂體曰道曰器是也何謂用曰變曰通曰事業是 一名なる情味をかりいるかんほ 今はかてたころうでんて表しまし んるい私まや 京在京不可以此天里九中二天 直名をなられてるまでまく! るがえるにおしているへのあす! おけなどれり文の大田ます 具于共中皇 如及色四字尾被 中一 誠蘇楊氏曰此節所以别言易道之體極言易道之用 上者器有形故曰形而下者如卦有上下之體爻有勁 之變通也此云化而裁之推而行之聖人之變通也〇 · 弄之質皆形而下者其理則道也因其自然之化而裁 制之則謂之變推廣而派行之則謂之通舉而措之天 下之民則謂之事業前章云一闔一闢住來不窮天地

用以在股份できませる人 ていえと子展の主がなおろ \$P\$ 20 20 20 1 極天下之順者存乎卦鼓天下之動者存乎解 在中田安とててい殿之際へ 有好る風い佐子 其典禮是故謂之)交子降四名了如星谷公里一名中读者以不传面日仙公子了我 本義非印象也解即文也〇朱子曰極天下之蹟者存 氏曰窮天地萬物之象而歸諸針故曰極發天地萬物 存乎解是說出天下之動如鼓之舞之相似〇雲拳胡 本義重出以起下文〇節齊察氏曰夫當作父象印卦 乎卦謂卦體之中備陰陽變易之形容鼓天下之動者 文即辭也 之理而見乎解故日韓〇前琰氏日聖人有以見天下 之隣故能極天下之隣聖人有以見天下之動故能鼓

四百日日之七世典故一化而裁之上文化而裁之明作變化是就這變處見得化日子正然為前日至言一化而裁之上文化而裁之明作變化是就這變處見得化 紫芍多以至四日一本義計爻所以變通者在人人乙所以能神而明之者 る方をなのでを成し 地方失供不し現る社的物気 什 ガムるの理を将将大宝主 九仏を状るさまればかるからも 有主军属大四年移员而成之不言而信存乎他行四的外外的公安至之次 九的作力の便出完其外力文式 十 地 何 要至人下 住人之人 是私教人工 日本美工而裁之存乎變推而行之存乎通神而明之存乎其人點 がと方は、直云直因化我投 りなるでいれることなける 舞足蹈而不能自己故曰鼓 在他心俞琰氏曰易不變則奇耦乃死象故化而裁之 矣神而明之則在乎其人若夫默而成之不言而信則 則在乎變變而後通故推而行之則在乎通易道固神 有遺者故曰極動以解决使天下樂於趨事赴功者手 天下之動隨以家者且有家則写天下之至雜至亂无

作為否易有二百十名三 かるこの人るてるやいかん ~るからいというべかる! 素对为己 存于于人社会院 世長さる人が不行きると お言うな名 り人ので不全人のなりる なんななかるおえば おのははらゆきからかる 我多多的化数子等放了 老在我一人的天在被子 子通房西是四个多大点 おべんりらせべいるりは後 せが人作みななしんかて 下之事業其聚在一身之德行也〇葉良現日此章論 之事業推易道於民也此言變通而歸之德行行易道 於巴也 舉而措之天下也此言變通而歸之德行聖人以易道 之父象其聚在乾坤之二卦聖人用易之道其敢在天 易之用此六存者則聖人之用夫易也前言變通而歸 存之於一身也〇丘氏行可曰上文五謂者皆聖人作 試務楊氏日此章言聖人作易之意其散在六十四卦 又在乎人之德行前言疑通而歸之事業聖人以易道 右第十二章

門在自己用方成性人成图首

かましん立竹多大笑 用多件表有是行 矣因而重之設為六十四卦以觀其愛惡之相攻遠近 随其卦之大小象之失得憂虞繁之解以盡其言使夫 地之精臨以告人也其道何由包義氏有爱為故立象 之於書意之難傳者不能盡見之於言聖人欲開發天 聖人之作易與夫人之用易也言之難明者不能盡形 之相取以盡其情偽而天下之順又无不見矣至於文 以盡意八卦成列而天地之撰神明之德皆可以意會 人之觀象玩占者又可因言以得意而前聖之精臨益 王周公又處天下後世之人不能觀象以得其意也故 以開兵於是数人上盆觀止變而通之以盡天下之利

月力作支有美術なだ 為无窮必乾坤毀則无以見耳若易不可見則乾坤或 **幾乎息矣由是觀之易之為道其天地之所以為天地** 事得其解之」因且悔客則懼以終始其要无咎鼓之舞 為之哉要不過以發明天地之蘊馬耳故口乾坤其易 之成有以成其曹雪以盡易道之神凡皆聖人繁醉之 易之體也萬物之隨帝以出入易之用也易與天地相 乎下乾坤成列而易已立乎其中矣四德之相為循環 之緼邪何以言之自夫天地之始闢也乾位乎上坤位 功也夫易道之有功於天下如此然豈聖人有意而刻 凡皆聖人立象設卦之功也占得其解之吉則喜而起

人用之以行其神化也由是象睛畫卦而凝諸其形容 地是也聖人因其化而裁之即所謂裁成天地之道是 之頤至難見也如道有變動感有情偽事有失得愛屋 故謂之東效動觀會通繁監斷古凶故謂之父且天下 民謂之事業而易道行乎天下矣凡此皆畫前之易聖 時以佐佑民是已故謂之通泉變通之道措諸天下之 乎是故形而上者謂之道易是也形而下者謂之器天 之類卦之象莫不窮極而形容之故曰極天下之睛出 已故謂之變推而行之法天以為治也即所謂敬授人 存乎卦天下之動恒難於占决也如吉凶悔各以及无

咎之類文之辭莫不者明其故以決斷之玩而得之者 自有以成其聖聖故曰鼓天下之動者存乎解於是教 人卜筮觀其卦爻所變畫夜之象或吉或凶或悔答且 行之達山郎吉超時之利即所謂通變之謂事是已故 夫易也少后變通而歸之事業推自然之心易以行其 玩其占是已故曰化而裁之存乎變由是推其所占而 五謂者皆言聖人作易之本此六存者則古夫人之用 无咎以我所占之事合而裁之即所謂動則觀其變而 人而所以能神而明之則存乎不言而信之德行上文 曰推而行之存乎通若夫神明夫變通之法則存乎其

神化也此言變通而歸之德行因卜筮之易而神明之 者此之謂也 以成已也由是言之易何止前民之用其吾人之所由 以成已而成物者平故曰夫易聖人所以崇德而廣業 伴義補疑卷之十終